

&lt;&lt;最終更新日：2017年03月18日&gt;&gt;

[English](#)**基本情報**

時間割コード／Course Code	306105
開講区分(開講学期)／Semester	春～夏学期
曜日・時間／Day and Period	金2
開講科目名／Course Name (Japanese)	日本語教育学実践論 I A
教室／Room	E 1 0 3
開講科目名(英)／Course Name	Studies in Teaching Japanese as a Second Language IA
定員／Capacity	0
ナンバリング／Course Numbering Code	30JALC6BY01
必修・選択／Required/Optional	
単位数／Credits	2.0
年次／Student Year	1,2年
分野／Field	
担当教員／Instructor	真嶋 潤子

[授業担当教員一覧](#)**詳細情報**

講義題目／Course Name	日本語教育における複数言語習得研究
開講言語／Language of the Course	日本語
授業形態／Type of Class	演習科目
授業の目的と概要／Course Objective	国内外で日本語教育に携わる予定の受講生が、高度専門職業人としてあるいは実践研究者として活躍するために必要な言語習得研究の方法論に関する専門性を高めつつ、優れた研究論文のあり方を考える。
学習目標／Learning Goals	第二言語習得研究、年少者へのバイリンガル教育、多言語教育や言語教育政策にかかわる様々な研究論文(受賞したものを含む)を批判的に読み、研究方法の理解を深める。
	日本語と英語が読めること。日本語教育学の

履修条件・受講条件／Requirement / Prerequisite	<p>基礎知識があること。 以下の4冊のうちなるべく多く読んでおくこと。 大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版 迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク 小柳かおる(2004)『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク 中島和子(2016)『完全増補版 バイリンガル教育の方法』アルク</p>
授業計画／Class Plan	<p>第1回 オリエンテーション 研究分野と学会 第2回 調査と研究方法の概論 第3回 受講生が選んだ論文の批判的考察(1) 第4回 受講生が選んだ論文の批判的考察(2) 第5回 受講生が選んだ論文の批判的考察(3) 第6回 受講生が選んだ論文の批判的考察(4) 第7回 受講生が選んだ論文の批判的考察(5) 第8回 ゲストスピーカー(調整中) 第9回 受講生が選んだ論文の批判的考察(6) 第10回 受講生が選んだ論文の批判的考察(7) 第11回 受講生が選んだ論文の批判的考察(8) 第12回 受講生が選んだ論文の批判的考察(9) 第13回 受講生が選んだ論文の批判的考察(10) 第14回 受講生が選んだ論文の批判的考察(11) 第15回 総括</p>
授業外における学習／Independent Study Outside of Class	論文を読んで、研究目的、研究方法、調査結果の整合性や妥当性、改善策などの面から、優れた論文の条件について考えてくる。
教科書・教材／Textbooks	授業で紹介あるいは配布する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>『日本語学 2015.11臨時増刊号 特集 入門：第二言語習得研究』明治書院</li> </ul>

参考文献/Reference	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹内理ほか著『外国語教育研究ハンドブック-研究手法のより良い理解のために』松柏社</li> <li>・ライトバウン・スパダ (2014) 『言語はどのように学ばれるか-外国語学習・教育に活かす第二言語習得論』岩波書店 [Lightbown &amp; Spada. 2013. "How Languages are Learned", Oxford University Press]</li> <li>・Wright, Boun &amp; Garcia (Eds.) 2015. "The Handbook of Bilingual and Multilingual Education", Wiley Blackwell.</li> </ul> <p>その他の文献は授業で紹介する。</p>
成績評価/Grading Policy	出席+発表+レポートにより総合的に評価する。
コメント/Other Remarks	特になし。
特記事項/Special Note	受講生自身の研究テーマから距離がある内容であっても、知見を広めてもらいたい。
オフィスアワー/Office Hour	初回の授業で案内する。

## 授業担当教員

### 教員氏名/Instructor Name

データがありません

### 学生への注意書き